

# Book Review

## 月刊「歯界展望」別冊 はじめての部分床義歯

松田謙一・荻野洋一郎・兒玉直紀・和田淳一郎 編



Reviewer

谷田部 優 Masaru Yatabe  
(東京都・千駄木あおば歯科)

A4判, 196頁  
オールカラー  
定価 6,930円  
医歯薬出版刊



### 新進気鋭の著者陣による 部分床義歯の実践教科書

このたび発刊された歯界展望別冊『はじめての部分床義歯』は、すでに好評を博している同誌別冊『はじめての全部床義歯』(医歯薬出版、2019年)に続く第二弾となる。本書の筆頭編著者である松田謙一先生は、全部床義歯関連の多くの書籍を執筆されており、全部床義歯の専門家として著名であるが、大阪大学では部分床義歯の研究、教育もされていたため、部分床義歯教育にも精通している。今回は、編著者に同年代の新進気鋭の教育者である九州大学の荻野洋一郎先生、岡山大学の兒玉直紀先生、東京医科歯科大学の和田淳一郎先生らが加わって、読む前から期待が膨らむのは私ばかりではないだろう。

実際に目を通してみると、それぞれの章の執筆者には大学で直接学生を指導している若手教育者も参画しており、最先端の部分床義歯教育が濃縮された部分床義歯の実践教科書になっている。

### 「わかる」「できる」ようになる構成

本書のイントロにも書かれているように、部分床義歯の設計にはこれしかないという正解はない。ただし、これはやってはいけないという一定のルールがあり、複数考えられる設計から患者の口腔内の状態を読み解いて適切な設計を考えていく面白さがある。本書は初学者が絶対おさえておかなければならない欠損の診断からメンテナンスまで部分床義歯学の基本的事項はもちろん、実際の臨床で誤りやすい手法も丁寧に解説されている。どのページを開いてもパッと写真や図が目に入り、そこから項目を見て、内容を見て理解を深めることができる。

文章も大変読みやすく、読んでいるうちに引き込まれ、自然に考える力ができてくる飽きない構成になっている。また、臨床例が多数紹介されており、読みながら実際の手技がイメージできる。特にカリキュラムに則った教科書と違って、筆者らがよく使っている印象材や人工歯、リライン材など、さまざまな材料の特徴も含めて解説されているのは大変参考になる。

### 部分床義歯を愛するすべての 歯科医師・歯科技工士の必読書

本書は、特に部分床義歯に苦手意識をもっている、あるいは設計に悩んでいる臨床医にはぜひ読んでもらいたい書籍であるが、臨床経験が豊富な歯科医師や歯科技工士にも推薦したい。義歯臨床は歯科医師と歯科技工士の連携が大切であるが、本書はより良い補綴装置を製作するための共通認識の書として、このうえなく良くまとまっている。

付け加えておくと、タイトルが「はじめての」ではあるものの、なかなかどうしてとても初心者用の本とは思えない。38年の臨床経験がある評者も、新たな視点での解説にはなるほどと思うところも多く、部分床義歯臨床の奥深さに改めて気付かされる。特に章立ての間に挟み込まれたコラムは、日常臨床で気になっているテーマについてエビデンスに基づいて解説しており、大変参考になった。まずは、手にとって読んでもらいたいと切に願う書籍であり、読者諸賢にとって座右の書となる一冊であるのは間違いのない。